

優秀賞

## 0点の強さ

学校法人岩田学園 岩田中学校 1年 小野 怜

「さとし、テストで0点とってごらん。一〇〇点より難しいよ。」

僕の祖父が、僕によく言っていたことだ。小学生の頃の僕には意味が分からなかった。しかし、その時、なぜか、僕のとなりで祖父がニコニコしながら語りかけてくれたように感じた。

その時とは、中学校入学後すぐに行われた実力考査である国語のテストが終わった時だ。全く出来た感じがしなかった。

中学の入学が決まり、僕は毎日、楽しく気ままに春休みを過ごしていた。入学時に提出しなければならぬ課題がたくさん出していた。しかし、僕は、課題からは目を背け、最後の一日で課題を仕上げていた。徹夜で課題の文字を埋めるという動作をしていたに過ぎない。今まで、宿題は提出すればいいと思っていた。そして、テストで適当な点をとればいいと思っていた。

国語の点数は「四十六点」、学年でビリだった。結果は想像どおりだったが、シヨックだった。

「はっはっは」

祖父に結果を話すと、笑っていた。その時祖父は笑いながらこんなことを言っていた。

「別にそれでもいんだよ。大事なのはそのあとだから」

と言って、台所に戻っていった。そして、それ以上なにも言わなかった。今回は0点ではなかったが、0点を取るということは、一〇〇点より多くの学びがあったことが分かった。なぜ点数が悪かったのか、自分自身の行動や性格をふりかえることができた。

そして、僕はそれから、今までの経験を活かし、全教科全力で勉強に励んだ。その結果、十三番という僕の中では良い順位がとれた。

僕は祖父に感謝している。自分のあり方に気付かせてくれたこと。だから僕は一言、言いたい。「おじいちゃんありがとう」と。